

# 「学校において予防すべき感染症」についてのお知らせ

## 保護者の皆様へ

学校保健安全法施行規則により、「学校において予防すべき感染症」(下記参照)には出席停止の期間が定められています。

この期間は学校内での感染拡大を防ぐために、感染症に罹患した児童生徒等が登校できない期間です。(出席停止となった期間は、欠席扱いになりません。)

これらの感染症の可能性があって欠席させる場合には、授業開始前に連絡をしてください。また、診断の結果についても速やかに連絡をお願いします。

医師の指示等により、他の人へ感染させるおそれなくなった生徒を再登校させる際には、「学校において予防すべき感染症による欠席届」(保健室備え付け用紙または PDF をダウンロードして印刷)を保護者様をご記入いただいた後、担任へご提出ください。

学校において予防すべき感染症の種類と出席停止期間の基準

分類	病気の種類	出席停止の期間
第一種 感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、 南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、 ラッサ熱、ポリオ、ジフテリア、重症急性呼吸器 症候群、中東呼吸器症候群、 鳥インフルエンザ（H5N1）	治癒するまで
第二種 感染症	インフルエンザ （鳥インフルエンザ H5N1 および新型インフル エンザは除く。）	発症後 5 日を経過し、 かつ、解熱後 2 日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで または、5 日間の適正な抗菌薬療法が終了す るまで
	麻疹（はしか）	解熱後 3 日を経過するまで
	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	耳下腺、顎下腺又は舌下線の腫脹が始まった 後 5 日を経過し、かつ、全身状態が良好にな るまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘（みずぼうそう）	全ての発しんがかさぶたになるまで
	咽頭結膜熱	主要症状が消退後、2 日を経過するまで
	結核	学校医その他の医師が 感染のおそれがないと認めるまで
	髄膜炎菌性髄膜炎	学校医その他の医師が 感染のおそれがないと認めるまで
	<b>新型コロナウイルス感染症</b>	発症後 5 日を経過し、 かつ、症状の軽快後 1 日を経過するまで
第三種 感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、 腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出 血性結膜炎、その他の感染症	学校医その他の医師が 感染のおそれがないと認めるまで
	（条件によっては出席停止の措置が考えられる疾患）	
	溶連菌感染症、ウィルス性肝炎、手足口病 伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ感 染症、感染性胃腸炎、EB ウィルス感染症など	全身状態が悪いなど、 医師の判断で出席停止を要する場合など

※通常、出席停止の措置は必要ないと考えられる感染症の例

アタマジラミ症、水いぼ、伝染性膿痂疹（とびひ）疥癬など